

No. 1635

憲法の番人として

—— 裁判所制度百周年式典 ——

11月1日東京・千代田区の最高裁判所で裁判官制度百周年記念式典が天皇・皇后両陛下御臨席のもとに行われました。わが国が近代的な裁判所制度を取り入れて百年目、明治憲法から現法憲法に代わって文字通り国民の裁判所になった昭和22年から43年が経過しています。

草場最高裁長官のあいさつ、海部首相、桜内衆院議長などの祝辞のあと天皇陛下のおことばがありました。裁判所が三権分立下の憲法の番人として国民の権利、人権などを守る基本的使命を推進して欲しいものです。

南ア黒人に支援を

—— マンデラ氏来日 ——

南アフリカ共和国のアパルトヘイト（人種差別）体制と獄中で28年間闘い今年2月釈放されたアフリカ民族会議（ANC）のネルソン・マンデラ副議長72才が日本政府の招待で10月27日来日しました。

28日夜東京・日本大学講堂での歓迎コンサート会場にマンデラ氏が登場しスピーチ。今回のアジア歴訪でインド政府が1千万ドル、インドネシア政府が5千万ドルをANCに援助する約束をしたことを披露し日本政府にも期待していることを表明しました。

翌29日、首相官邸で海部首相と会見、マンデラ氏がANCに2500万ドルの直接援助を要請したのに対し首相は「これまで海外の特定の政治団体に直接援助した例がないので困難」と答え国連を通しての協力を表明したにとどまりました。

30日、マンデラ氏は衆議院本会議場で国家元首クラス以外としては異例の演説をしました。

マンデラ氏は「今日、南アフリカに於ては国民の圧倒的多数が文盲、失業、ホームレス、病気、劣悪な教育、その他多くの社会的弊害の犠牲者であり南アフリカの子供たちの将来のためにも貧困と窮乏の克服、技術的な教育政策が必要と訴え、また日本の政府、国民に対し南アフリカの変革、自力更生のために福祉や教育面での援助と共に経済的に成功した日本の経験が我々にとって大きな価値となりうると指摘、日本への強い期待を表明しました。

マンデラ氏の来日がアパルトヘイト（人種差別）に対し日本人に様々な問題を提起したといえそうです。